

公共施設のあり方検討を踏まえた施設運営等の見直し

「公共施設のあり方に関する最終報告書」及び「中間報告書」における委員会の提言を踏まえ、効率的かつ効果的な施設運営に取り組み、施設全体としての経費削減を行うとともに、一定の年限を区切って目標を設定し、利用者増加等に努めます。

1 経費節減に係る取組

平成22年度運営費の節減（対前年比） 563,160千円（17.5%）
節減額2カ年累計（H21、H22） 726,339千円

【平成22年度当初予算（案）における運営費】

施設名	H22 運営費 (千円)	増減額		増減率 H21 比 (%)	(参考)増減額		備考
		H21 (千円)	H22 (千円)		H20 (千円)	H21 (千円)	
<最終報告書対象9施設>							
歴史博物館	248,877		39,332	13.6			
土屋文明記念文学館	171,052		5,038	2.9			
自然史博物館	449,827		4,209	0.9			
精神障害者援護寮	29,628		46,286	61.0			指定管理者制度導入
水産学習館	2,260		16,560	88.0			廃止
北毛青年の家	70,764		829	1.2			
妙義少年自然の家	71,640		606	0.8			
東毛少年自然の家	89,658		544	0.6			
生涯学習センター	259,330		9,665	3.6			
<中間報告書対象5施設>							
近代美術館	357,479		24,843	6.5	11,485		
館林美術館	254,973		5,485	2.1	9,941		
高齢者介護総合センター	102,962		340,944	76.8	2,925		介護部門：民間譲渡 研修部門：直営
ぐんま天文台	255,595		30,545	10.7	55,505		
ぐんま昆虫の森	292,648		38,274	11.6	89,173		
合計	2,656,657		563,160	17.5	163,179		

2 利用者増加に係る主な取組

- (1) 歴史博物館、土屋文明記念文学館、自然史博物館、近代美術館、館林美術館
 - ・メリハリのある企画展の開催
 - ・教育普及事業（学校教育連携、団塊世代向け講座等）の強化
 - ・「県民の意見を聞く会（仮称）」を設置し、県民意見を館運営に反映
- (2) 北毛青年の家、妙義少年自然の家、東毛少年自然の家（名称を「青少年自然の家」として統一する予定）
 - ・学校利用受入を中心とした体制整備と閑散期における利用促進
 - ・新たな利用プログラムの開発
- (3) 生涯学習センター
 - ・主催事業の内容充実
 - ・関係機関との連携による少年科学館のイベント充実
- (4) ぐんま天文台
 - ・県民の学習や学校利用の促進など、教育普及に重点を置いた運営
 - ・天文台に対する県民理解とすそ野拡大に向けた地域・学校現場での積極的事業展開
 - ・本物にこだわらない、昼間や雨天等における企画の充実など利用促進の展開
- (5) ぐんま昆虫の森
 - ・学校利用説明会の充実、ホタル観察会・夜間観察会の充実、ぐんまちゃん家におけるPRイベントの開催、県外の学校関係者等への普及活動強化、イベント会場誘致